

平成29年度 一般入学試験問題

国語

注意事項

- 1 問題は1ページから14ページまであります。
- 2 試験時間は45分です。
- 3 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開いてはいけません。
- 4 試験開始後、この問題冊子のページ不足・印刷の不鮮明などの不備に気づいた場合は、監督者に申し出てください。
- 5 解答はすべて解答用紙に記入してください。
※字数制限のあるもので、句読点などが必要な場合は、すべて字数に含みます。
- 6 解答用紙には、志望コース・クラス、出身中学校名、受験番号、氏名を必ず記入してください。

自由ヶ丘高等学校

—
次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

私たちはよく「象は鼻が長い」とか「キリンの頸は長い」というような表現を用いるけれども、一体、象の鼻が長いという時の規準は何だろうかというのである。

そもそも「象は鼻が長い」というような表現は、論理学でいう全称命題の、日常言語による一つの具体的な表現とみなすことができる。つまり、この文は「あるものが象であって、それが鼻と呼ばれるものを持つていれば、それはいつも長い」となる。やさしく言えば、「すべての象は、長い鼻を持っている」という意味だと解釈してよい。この種の表現は、何か特徴的な身体部分を持った、いろいろな動物について、いくらでも作ることができる。「キリンの頸は長い」「ブタの尻尾は短い」「ツルの頸は長い」など。

さてそれでは、このような表現に一樣に見られる「長い」「短い」の規準は一体何であろうか。まず明白なことは、種の規準ではあり得ないということである。種の規準とは、例えば品評会で西瓜ほどのリングゴを見た人が、「わあ大きいリングゴ」と叫んだような場合に考えられるものだと前に述べた。何故かというところ、この表現は、「このリングゴは大きい」という意味であり、何に比べて大きいかというところ、普通の平均的なリングゴと比べて大きいということなのである。種の規準とは、要するに、ある対象の集合の、特定の代表者つまり標本についての判断を下すときに用いられるものであり、論理的に言えば、特称命題に属するものといえる。したがって、「象は鼻が長い」というような全称命題的性格を持つている表現と、種の規準は相容れない性質のものである。どうしても種の規準と考えたい場合には、すべての象を、その構成メンバーの一部とするような大きな集合、つまり動物全体（たとえば哺乳類全体）を一つの種とみなして考えることはできよう。

つまり「動物の中で、あるメンバー（これにすべての象が含まれる）は鼻が長い」の意味で、「象は鼻が長い」というのだと考えてみるわけである。このような考え方の難点は、動物という集合が、たとえ哺乳類と限定をつけたにせよ、非常に多種多様な種類から成り立っているため、動物の普通の、平均的な鼻の長さというものが求められないということである。少なくとも、目の前の対象を、即座に長いか短いかと判断するために必要な、出来合いの目安としての「動物の平均的な鼻の長さ」などというものは、誰にとっても存在しないと云わざるを得ない。

それでは、比率規準に基いた判断だと考えることができるだろうか。これの方が種の規準よりも妥当性が多いように思われる。比率規準とは、ある物体（対象物）の一つの次元を評価する際に、その物体の更に別の次元を物差しにするものであった。

この見地から象の鼻を見れば、たしかに幅（直径）に比べて長さが著しい。だから比率規準があてはまると一応考えることができよう。しかし、もつと良く考えてみると、この説明も充分でないことが分るのである。

いまツルの足とスズメの足を比べてみると、前者は誰もが長いと認めるけれど、後者は短いと言う人が多いと思う。どのみちスズメの場合には、足は人目を引くような特徴とは考えられない。しかし、足だけに注意して、長さとおさの関係をしらべてみると、スズメの足もかなり細長いものである。

つまり比率規準的に言えばスズメの足は、縦の次元の方が横の次元より遙かに長い。それなのにスズメの足は、普通には長いと言わないのである。このような例から、特徴的な身体部位を持った、ある動物について、足が長いとか鼻が長いと言う場合は、その部位だけの形状を問題にしているのではなく、問題の部分と体全体の大きさと、何等かの意味での釣合関係に私たちは着目しているのだと考えざるを得ない。

そこで象に戻って次のように考えてみよう。象は陸上動物で最大のものである。従つてもし象に、体の大きさに見合う長くない、短くもない、適当な鼻がついていたとしたら、それはどのくらいの長さに落着くのだろうか。その場合の、「このくらいの長さが象としては適当」という、我々が頭の中に抱いているにちがいない規準が、現在の象の鼻を見た我々に、象の鼻は長いと言わせる規準なのである。つまり鼻と体全体との調和がとれていると私たちが感ずる比率を求めらるので、単に鼻だけに対象を限定した、長さとおさの比率が問題ではないと考えられる。

私たちがいろいろ動物の著しい身体的特徴に、長いとか、短いとか、太い、細いと言及する時は、この全体との調和規準が問題になっていると思われるのである。

それならば、動物一般の体の或る特定の部分と、体全体との比率は何が調和的で基本的なものとして、私たちの頭の中に存在するのだろうか。私の考えでは、人間の体の部分と全体の比が、人間以外の動物を見る時にも、尺度として（時には拡張的比喩的に）用いられているのだと思う。

（鈴木 孝夫 『ことばと文化』より）

問一 本文中の **よく** について、これと傍線部の品詞が同じものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 **丈夫な綱**で結んである。 2 **めつきり**気力が衰えた。 3 **楽しい**ひとときを過ごす。

4 雨が**激しく**降り出した。 5 **大きな**桃を持って帰る。

問二 本文中の **論理学**という全称命題 について、その具体例として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 山田君は教室で一番賢い。 2 この道は学校の帰り道だ。 3 勝つことが全てではない。

4 人は誰でもいつかは死ぬ。 5 トマトが嫌いな人もいる。

問三 本文中の **種の規準** について、その性質を説明したものととして最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 種の規準は、ある特定の集団全部を対象とする特称命題に属するものである。

2 種の規準は、客観的に平均値が計測された集団にしか存在しないものである。

3 種の規準は、リンゴなどの移動しないものだけを対象としているものである。

4 種の規準は、その種の代表となった存在に称号として与えられるものである。

5 種の規準は、集団内の特定の存在に対して判断を行う際に用いるものである。

問四 本文中の **このような考え方** について、その内容として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 動物という大きな集合を一つの種とみなし、その種の規準と比較して「象は鼻が長い」と判断しているとする考え方。

2 哺乳類を「動物の中で鼻が長いあるメンバー」と定義づけて、その一部に象も含まれると判断しているとする考え方。

3 動物全体を一つの集合として、その集合以外の長い物との類似性から「象は鼻が長い」と判断しているとする考え方。

4 鼻が長い動物を一つの集合と捉え、そのメンバーに含まれているから「象は鼻が長い」と判断しているとする考え方。

5 地球上の動物全てが象と同じサイズになったと仮定すると、最も鼻が長い種は象になると判断しているとする考え方。

問五 本文中の 比率規準に基いた判断 について、この判断を行っていると考えられるものとして最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 幅広い交友関係
- 2 短毛種の犬
- 3 横長の長方形
- 4 足が速い生徒
- 5 高層マンション

問六 本文中の スズメの足は、普通には長いと言わない について、その理由として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 ツルの足の長さや象の鼻の長さ比べると、スズメの足は決して長いものではないから。
- 2 スズメの体は小さいので、その体の小ささにのみ注目して足の長さに気がつかないから。
- 3 人間の日常生活の中で、小さな体で空を飛ぶスズメの足が視界に入することは少ないから。
- 4 足の太さと長さの関係に着目しても、スズメの足は特徴的なほどの長さは持たないから。
- 5 スズメの足は、スズメの体全体の大きさに対してむしろ短い方であると考えられるから。

問七 本文中の 適当 について、ここでのこの言葉とほぼ同じ意味を表す言葉として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 立派
- 2 相応
- 3 良好
- 4 理想
- 5 美麗

問八 本文中の 我々が頭の中に抱えているにちがいない規準 について、この規準を作り出しているものとして筆者が考えているものを、本文中から十五字以内で抜き出し、はじめと終わりの三字で答えよ。

問九 本文の内容と一致するものとして最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 人間は何かに対して「長い」「短い」などの特徴を述べるときに、その種の平均的な存在を頭の中に思い浮かべている。
- 2 動物の種の規準を求めなければ、象の鼻が長いとは言いつれもないため、全ての動物の鼻の長さを調べていく必要がある。
- 3 比率規準に基づいた判断では、スズメの足はツルの足よりも長いのだが、足が長い動物と言われるのはツルの方である。
- 4 ある動物の体全体に対して釣合がとれていないと感じる部分があるが、その動物の特徴的な身体部位として我々の目には映る。
- 5 体の特定の部分と体全体の比率が最も美しい比率になっているのが人間であるため、人間は尺度として用いられている。

二

次の各問に答えよ。

問一 次の傍線部の漢字の読みを、平仮名で書け。

課題とされていた事項が多岐にわたって説明され、原案が覆された。

問二 次の傍線部に適当な漢字をあて、楷書で書け。

歴史を振り返りながら古都をさんさくして、おごそかな気分になった。

「そんなに心配せんでもいいっちゃよ。いっぺん頭から泥に突っ込んでみたらすぐに慣れますけん」
ずいぶん乱暴なことを言われて、梓はむっとした。少し語気を強めて返す。

「だけど、あの子、こんなところの泥に触ったこともなければ、野生のドジョウなんて捕まえたこともないんですよ」
努は、「ああ、その通り」と軽くないなした。

「放鳥されたトキとおんなじっちゃ」
どきりとした。

大切に大切に、守り育てられたトキ。本物の泥にも野生のドジョウにも触れたことがないまま、野に放たれたのだ。

「私たち中でも賛否両論ありましてね。ようやく百羽になったばかりで、さあ放鳥だ、でいいのか。それに、春ではなく秋に放鳥するんは、無理があるんじゃないかって」

このさき、すぐに冬がくる。管理されたケージの中で人間に与えられた餌を食べて過ごしてきたトキたちが、過酷な季節を乗り切れるのか。

「じゃあなぜ、秋に放すことになったんですか？」

努は鼻の頭をちよつと搔いて、

「さあね。お役所は、頭でっかちだから、年度の上半期の間とかなんとか、彼らの都合があつたんでしょ」

トキの繁殖や放鳥には環境省が深く関わっている。役所の論理で決められることも結構多いんだよ、と努は苦笑した。命を減らすのも増やすのも、人間の論理で、ということなのか。

きやあつ、と大きな声が上がって、振り向くと、唯が用水路の泥の中に尻もちをついている。周りの子供たちが、わっと歓声を上げた。

「唯っ!」

梓が駆け寄るより早く、唯の手を取って立ち上がらせてくれたのは、努の息子の亮太だった。

「だいいじよぶか?」

泥を全身からしたたらせながら、ささやかな声で、ありがと……と娘がつぶやくのを、梓は確かに聞いた。

その夜、努の家の食卓を、努と妻の孝枝、息子の亮太とともに、梓と唯が一緒に囲んだ。

食卓の上いっぱい、手作りの総菜が並ぶ。唯の目が、見たこともないほどたくさんあるおかずの上を泳いでいる。風呂上が

りの唯は、つやつやした赤い頬がみずみずしかった。亮太は照れくさいのか、同い年の客人と目を合わせようとはせず、いち早くおかずに箸を伸ばして、少年らしく一生懸命に食べている。

「この魚はノドグロ。いま旬やけん、おいしいんよ。こっちのコーコーは、ここんちで作ったもんです」

孝枝が煮魚やたくわんを指さして説明してくれた。何から何まで世話になって恐縮なので、梓は食事の支度を手伝うつもりでいたが、いいっちゃよ、と手を出させてくれなかった。孝枝の作った総菜はどれも泣けるほど美味かった。誰かに作ってもらう食事はおいしい、とは主婦の一般的なつぶやきだろう。けれど梓には、大人数で食卓を囲む食事こそ、おいしいと感じる条件のような気がした。

いつもの食卓は、母と娘。ふたりぼっち。会話もなく目も合わせずに向かい合うばかりで。

食後は孝枝とともに梓も流し台の前に立った。孝枝はやたら元気がよく、佐渡弁を交えながら間断なくしゃべり続けている。そして、自分で言った冗談に自分で笑い転げている。ずいぶん一方的でにぎやかだったが、梓は不思議と好感を持った。

P T Aでときおり一緒になる母親たちとのあいだには、ちよつとした距離があった。自由な校風を求めて我が子をわざわざ入学させている親が多いので、良くも悪くも意識が高く意志も強い。唯が神経症であることは特には誰にも話さなかったが、いつのまにかクラスの母親全員が知るところとなった。

「せっかく転校させたんだから、もつと積極的にクラスに関わるように仕向けなくちゃだめよ」

などとおせっかいな入れ知恵をしようとする母親もいた。そういういっさいがっさいが梓には疎ましく感じられた。自分でさえそうなのだ。唯はもつと疎ましく感じているだろう。

クラスメイトが神経症なんだと母親にわざわざ報告する子たちと、一緒に机を並べているんだから。

ほんとうは、クラスメイトたちが競ってこのワークショップに参加するんじゃないか、と梓は考えていた。そうになったら面倒くさいな、と。けれど、いつも声高にエコロジーだ環境教育だと言っている母親たちは、トキの棲む環境づくりになど興味があったようだ。

(原田 マハ 『星がひとつほしいとの祈り』より)

問一 本文中の 長いこと放置されとった とあるが、これと同じ意味で使われている表現を本文中から十字以内で抜き出し、はじめと終わりの三字で答えよ。

問二 本文中の に当てはまる語句として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 ここまで草刈りが進みました！
- 2 こんなにたくさんさんのドジョウがいました！
- 3 これだけいろんな生き物がいました！
- 4 これでトキが安心して餌を食べられます！
- 5 この村人が総出で整備しました！

問三 本文中の それから網を手に、おっかなびつくり泥の中を探った について、これは子供たちのどのような様子を表しているか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 子供たちが都会では見たことのなかったものに対して、自分の今までの暮らしぶりを反省している様子。
- 2 子供たちが都会では見たことのなかった小動物に対して、神聖さを感じておののいている様子。
- 3 子供たちが都会では見たことのなかったものに対して、自然の雄大さを感じながら接している様子。
- 4 都会から来た子供たちが初めて触れるものに対して、不潔なものだと思ひ嫌悪感いっぱい接している様子。
- 5 都会から来た子供たちが初めて触れるものに対して、怖がりながらも好奇心をもって接している様子。

問四 本文中の いっぺん頭から泥に突っ込んでみたらすぐに慣れますけん について、この発言における努の意図はどのようなものか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 子供は親の思い通りにはならないので、今だけ心配して守ってやってもどんなふうか結局わからないのだ、と梓に同情する意図。
- 2 子供は親が思うほど軟弱ではないので、初めて接するものが相手でも実際に体験すればそのうち順応できるのだ、と梓を安心させようとする意図。
- 3 子供は親の予期しないことばかりするので、一度失敗させて身をもって危機を回避する力を養わせた方がいいのだ、と梓にアドバイスしようとする意図。
- 4 子供は親が考える以上に過保護にされることを嫌うのに、梓が駆け寄りたりすると親子関係が悪化する恐れがあることを気づかせようとする意図。
- 5 子供は失敗することで親から自立していくものなのに、それを全く理解せず必要以上に心配ばかりしている梓に呆れ、からかってやろうとする意図。

問五 本文中の「いなした」について、これはどのような意味か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 相手を侮って、自分が優位に立つこと。
- 2 相手の攻撃を上手にあしらうこと。
- 3 相手の追及を全く相手にせず突き放すこと。
- 4 相手の主張を真つ向から説き伏せること。
- 5 相手の要求をとりあえず認めること。

問六 本文中の「どきりとした」について、これはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 本物の泥に触れたこともないまま放鳥されたトキと、娘の唯が同じだと言われたことで、都会で暮らしている娘の生活体験の少なさが心配になり、大自然の中でもっと伸び伸びと育てた方がいいのではないかと思ったから。
- 2 放鳥されて急に自分で餌を摂らなければならなくなったトキと、娘の唯が同じだと言われたことで、もし自分がいなくなったら、誰が娘の食事を世話してくれるのだろうかと不安に駆られたから。
- 3 絶滅が心配されているトキと、娘の唯が同じだと言われたことで、泥に足を取られるほど弱弱しい子供に育ててしまった自分の責任を痛感し、今まで以上に娘を大切に见守っていかねばならないと感じたから。
- 4 人の手で大切に保護され自分で餌を摂ったことがないまま放鳥されたトキと、娘の唯が同じだと言われたことで、これまでの娘への接し方が過保護すぎたのではないかと心配になってきたから。
- 5 放鳥されたトキと娘の唯が同じだと言われ、むっとして言い返してしまったせいで、生態調査を監督している努を怒らせてしまったことに気づき、熱心に調査を続けている娘に対して申し訳なく思ったから。

問七 本文中の「人間の論理」について、これはどのようなものか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 トキの数や繁殖時期よりも、環境省の定めた周辺環境への配慮を優先しようとする論理。
- 2 人間の考えや都合だけでなく、自然の状況やトキの安全を優先しようとする論理。
- 3 トキを大切にするのはなく、その周辺に住む人の生活環境を優先しようとする論理。
- 4 環境省の役人の都合よりも、トキの世話をしてきた人たちの気持ち優先しようとする論理。
- 5 自然の摂理や状態よりも、人間の定めた期限や目標値などを優先しようとする論理。

問八 本文中の ささやかな声で、ありがと……と娘がつぶやくのを、梓は確かに聞いた について、この時の梓の気持ちとして最も適当なものを、次の1〜5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 娘のことは母親である自分が助けなければならぬと思っていたのに、子供たち同士で助け合うことができている、娘自身も新たな人間関係を築いていることを知って、その成長を喜ぶ気持ち。

2 娘のことは母親である自分が一番理解していると思っていたのに、出会ったばかりの亮太の方が娘に信頼されているように感じられ、自分の存在がないがしろにされていることを寂しく思う気持ち。

3 娘のことは母親である自分が責任を持ってきびしくしつけてきたのに、他の子どもに助け起こしてもらってもささやかな声でしかお礼を言えない様子を見て失望し、恥ずかしく思う気持ち。

4 娘のことは母親である自分が真っ先に助けに行かなければならなかったのに、亮太に先を越されてしまったことで、母親としての責任が果たせていないのではないかと心配になる気持ち。

5 娘のことは母親である自分が大切に育ててきただけあって、出会ったばかりの亮太が泥で汚れることを顧みず率先して助け起こしてくれるほど、魅力的に育っていることを誇らしく思う気持ち。

問九 本文中の 梓は不思議と好感を持った について、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の1〜5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

1 孝枝は食事を作ってくれただけでなく、佐渡の料理について丁寧に説明してくれ、初対面の梓と共通の話題を持てるよう工夫してくれたから。

2 孝枝は佐渡弁ではあるが元氣よく間断なく話すので、梓としては話題を探したり、自分から話しかけたりしなくてもいいのが楽だと思ったから。

3 孝枝は自分が話すばかりで、梓や唯の生活について強く関心を持ったり、子育てについて押しつけがましく意見したりすることがないから。

4 孝枝が面白い冗談を言って笑わせてくれることで、同じ母親として打ち解けて悩みを相談できる雰囲気を作ってくれたことに梓は感謝したから。

5 孝枝が作った食事が大人の梓にとって泣けるほど美味しかっただけでなく、子供の唯にも美味しく感じられるものだったので安心したから。

四

次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

今はむかし、主君の御秘蔵なさるる狗の侍りけるが、いかなる故にや、俄に死にけり。主君はなほだ惜しみ給ひ、「これはいかさま若党どもの中に、馬銭といへる毒を飼うて殺したらん」とて、さまざま穿鑿ありけれども、誰がわざといふことを知らず。「この上は、とかく貧乏鬪をとらせ、一人を切腹さすべし」と仰せ出だされたり。浮世坊申すやう、「この事しかるべからず。唐土梁の帝、獵に出で給ふ。白き鴈ありて田の中に下り居たり。帝みづから弓に矢をはげ、これを射んとし給ふに、道行き人ありて、これを知らず白鴈を追ひたて侍り。帝大いに怒りて、その人をとらへて殺さんとし給ふ所に、公孫龍といふ臣下いさめて曰く、『むかし衛の文公の時、天下大いに日照りする事三年なり。これを占はせらるるに、曰く、一人を殺して天にまつらば、雨ふるべしと。文公の曰く、雨を求むるも民のためなり。今これ人を殺しなば、不仁の行、いよいよ天の怒りを受けん。この上は、われ死して天にまつらん、とのたまふ。その心ざし天理にかなひ、たちまちに雨ふりて、五穀ゆたかに民さかえたり。今、君この白鴈を重んじて人を殺し給はば、これまことに虎狼のたぐひにあらずや』と申しければ、帝大いに感じて公孫龍をたふとみ給ひけり。〈中略〉と申しければ、主君大いに感じ給ひて、その事をとどめられたり。

(『浮世物語』より)

- ※ 秘蔵……大切に育てること。
- ※ いかさま……きつと。
- ※ 若党……武家の身分の低い家臣。
- ※ 馬銭……マチン科の常緑高木。猛毒を有し、殺鼠剤などとして用いた。
- ※ 穿鑿……取り調べ。
- ※ わざ……しわざ。
- ※ とかく……ともかく。
- ※ 貧乏鬪……最も不利な役割の者をくじ引きで決めること。
- ※ 浮世坊……人物名。
- ※ 唐土梁……中国の梁の国。
- ※ 鴈……かも科の大形の水鳥。
- ※ はげ……つがえ。
- ※ 公孫龍……人物名。
- ※ 衛……国名。
- ※ のたまふ……おっしゃる。
- ※ 天理にかなひ……天に通じ。
- ※ 五穀……人間生活に必要な五種の穀物。

問一 本文中の「たふとみ」を現代仮名遣いに改めて平仮名で答えよ。

問二 本文中の「主君」について、「主君」と、浮世坊の話に出てくる「唐土梁の帝」との共通点は何か。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 人間の命よりも愛玩動物を大切にしている点。
- 2 怒りに任せて人の命を奪おうとしている点。
- 3 一度決めたら周りの意見に耳を貸さなくなる点。
- 4 詳しく調べもせずに罪人を裁こうとする点。
- 5 狙った獲物は絶対に逃そうとしない点。

問三 本文中の「この事しかるべからず」の解釈として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 家臣を切腹させるようなことをしてはいけません。
- 2 犬が死んだからと言って叱ってはいけません。
- 3 犯人がだれであるか知るはずありません。
- 4 主君の犬を殺すことなどできるはずありません。
- 5 貧乏鬮などだれもひかないでしょう。

問四 本文中の「これ」の指す内容を本文中から二十一字で抜き出し、はじめと終わりの三字で答えよ。

問五 本文中の「不仁の行」とは「仁義の道にはずれた行為」という意味だが、具体的にはどうすることか。最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 雨を降らせるために、人を殺して天にささげること。
- 2 多くの人々が日照りで苦しむのに、一人の命を惜しむこと。
- 3 三年も日照りが続いているのに、天命を待つこと。
- 4 雨を求める民の期待にこたえきれず、自ら命を絶つこと。
- 5 人の命をささげずに、天の怒りを受けること。

問六 本文中の「その心ざし」の説明として最も適当なものを、次の1～5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 占い師の、民のために自分が生贄いけにえになろうとするころざし。
- 2 占い師の、民のために文公を生贄いけにえにしようとするころざし。
- 3 占い師の、文公に人を殺させてでも、雨を降らせようとするころざし。
- 4 文公の、民のために自分が生贄いけにえになろうとするころざし。
- 5 文公の、天の怒りを受けてでも、雨を降らせようとするころざし。

問七 本文中の 虎狼のたぐひ とはどのようなものをたとえているか。最も適当なものを、次の1〜5のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 危険なもの
- 2 獐猛どうもうなもの
- 3 卑怯ひきょうなもの
- 4 貪欲どんよくなもの
- 5 残忍なもの

問八 本文中の 主君大いに感じ給ひて、その事をとどめられたり について、これはどういうことか。最も適当なものを、次の1〜6のうちから一つ選び、番号で答えよ。

- 1 主君が浮世坊の言葉にたいへん感服なさり、犬を殺した犯人を見つけ出して処刑するという非道な行いはおやめになったということ。
- 2 主君が浮世坊の言葉にたいへん感服なさり、白鴈を追い立てた通行人を処刑するという無慈悲な行いはおやめになったということ。
- 3 主君が浮世坊の言葉にたいへん感服なさり、貧乏くじで犯人を決めようなどという愚かしい行いはおやめになったということ。
- 4 主君が公孫龍の言葉にたいへん感服なさり、犬を殺した犯人を見つけ出して処刑するという非道な行いはおやめになったということ。
- 5 主君が公孫龍の言葉にたいへん感服なさり、白鴈を追い立てた通行人を処刑するという無慈悲な行いはおやめになったということ。
- 6 主君が公孫龍の言葉にたいへん感服なさり、貧乏くじで犯人を決めようなどという愚かしい行いはおやめになったということ。

一般入学試験問題 国語 解答用紙

志望コース・クラス (番号を○でかこんでください)									
1. スーパー特進			2. 特進Ⅰ類			3. 特進Ⅱ類		4. アドバンス	
出身中学校			受験番号				フリガナ		氏名
中学校									

解答記入欄

国語 得点	
----------	--

問二	問一
かな	され
おこそ	覆
さんさく	多岐

二

問九	問八	問六	問四	問一
		問七	問五	問二
	}			
				問三

一

小計

小計

問七	問五	問四	問二	問一
		}		
問八	問六		問三	

四

問八	問五	問二	問一
			}
問九	問六	問三	
	問七	問四	

三

小計

小計